

● 高等学校日语教材

日本社会

文化读解

日本の社会と文化を読む

王秀文
金山 编
山鹿晴美
今泉郁夫 审校



大连理工大学出版社

© 王秀文, 金山, 山鹿晴美 2004

图书在版编目(CIP)数据

日本社会文化读解 / 王秀文, 金山, 山鹿晴美编. —大连: 大连理工大学出版社, 2004.8

高等学校日语教材

ISBN 7-5611-2559-3

I. 日… II. ①王… ②金… ③山… III. 文化—研究—日本 IV. G131.3

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2004)第 024530 号

大连理工大学出版社出版

地址: 大连市凌水河 邮政编码: 116024

电话: 0411-84708842 传真: 0411-84701466 邮购: 0411-84707961

E-mail: dutp@dutp.cn URL: <http://www.dutp.cn>

大连理工印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸: 185mm × 260mm 印张: 17 字数: 387 千字

印数: 1 ~ 4 000

2004 年 8 月第 1 版

2004 年 8 月第 1 次印刷

责任编辑: 王佳玉 于福岳

责任校对: 李丽 继涛 萧音

封面设计: 孙宝福

定 价: 30.00 元

前 書 き

この教材は、「日本の社会と文化概論」という授業のために作ったものである。「日本の社会と文化を読む」というタイトルを取ったのは、従来の教師一方から講義するというやり方を改めて、教師・学生がともに読み、ともに考えて、ゼミナールという討論式で授業を進める方法を取り入れたためである。こういう方法によって、結論的な「概論」より、成り立つ「過程」をも含めた「生きた」日本の社会と文化を、「読む」ことで理解していくのがこの教材の狙いである。

すでに日本概況や精読・泛読などの授業を通して、ある程度日本の社会や文化に触れた日本語学科高学年の教材として、ほとんど原文のままの文章を選んだ。38時間というカリキュラムに合わせるために、日本の社会と文化の全般をカバーすることはできないにせよ、編集者として最も必要で、適切だと思う文章を5つの章に分けて羅列した。この教材とゼミナールという授業の運び方を通じて、社会と文化を理解するための基本的な知識と読み取り方を身につけることができれば幸いである。

読みやすくするために、各章の始めに「読解の手引き」として、その章の主な内容について簡単に紹介しておいた。そして、文章中において、とくに必要な言葉について洋数字の1.2.3というように解釈をつけ、読むときにとくに注意してほしい内容を☆として示しておいた。未解決の言葉や問題については、読むときに調べたり考えたり、あるいは問題として授業中検討したりすることになろう。

この教材に選んだ文章の内容はもちろん日本の社会と文化のすべてではない。そして古い時代に書かれたものもあるが、しかし昔のことでも現在とつながりがあり、ちょっと偏った見方でも「中らずとも遠からず」として、知っておいたほうがよからう。現在の日本を理解するために昔を知る必要があり、そしてより深く日本を知ることによって、中国ないし自分たちの民族と比較するという勉強をすすめたい。

この教材の仮編集は2000年の末に終わり、そして大連民族学院外国言語文化学部日本語学科の4年級の学生を対象に、2001年の春から現在まで3学年にわたって試用した。結果的に言えば、この教材と授業を通して学生諸君の多くが読む能力と理解する能力とが一段と上がり、意見発表の意欲が出、発表能力も期待通りになった。ということで、その上に全面的に修訂の手を施し、正式出版の運びとなった次第である。

最後に、この教材の出版を快く引き受けてくれた大連理工大学出版社に厚くお礼を言いたい。

編集者
2004年元旦

第一章 日本の風土と文化

1. 日本の風土

【読解の手引き】 この章は、「日本の風土」、「季節の文化」、「日本の美学と世界文化」の三つの部分からなっている。

「日本の風土」においては、日本列島の成り立ち、その周辺の海流、山脈・平野・河川などの特徴およびその地域区分について述べられ、日本の自然と人文的環境という風土を把握し、したがって日本文化の生まれた基層を理解するのに役立つだろう。

「季節の文化」においては、対談の形で、文芸・美意識・季節感の変化などを日本の季節の特徴に結びつけて、歴史的に、また外国と比べながら日本文化の重要な一側面が論じられたものである。

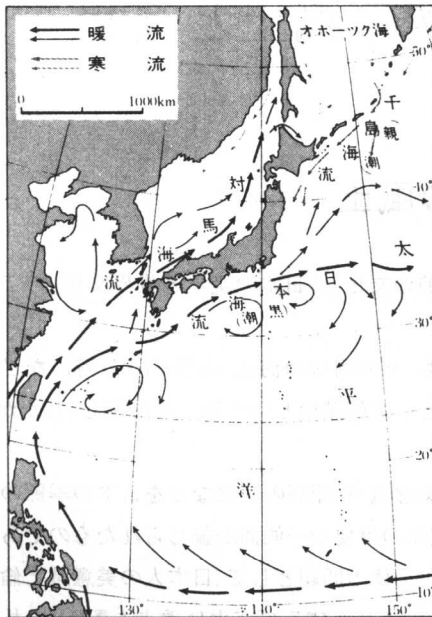
「日本の美学と世界文化」においては、日本文化全体の問題として、日本人の美意識と倫理や美の感覚、美学の特徴と変化などについて、主に庶民の生活およびその変化に重点を置き、素朴で代表的な日本の美を掘り起こして論じられている。文化としての美学問題は自然環境と生活環境から切り離しては語れないということも、この一文から察せられるものである。

弧状列島の島国 ¹⁾島国根性とか²⁾鎖国とかいうと、いかにも太平のねむりからさめやらぬ後進国といった印象が強いが、日本はたしかに島国である。

日本列島の周辺には平均深度 4282m、すなわち世界の三大海洋中でその深度がもっとも大きい太平洋が東と南にひろがり、さらに日本列島にほぼ併行並びに直角の方向をとって深度約 6000m から1万 m に達する部分のある³⁾日本海溝がのびる。これに対してアジア大陸との間に

横たわる日本海は⁴⁾大和堆^{やまとたい}その他を除くと平均深度は1350m^{せんかい}の浅海^{かいぼん}の海盆である。ことに朝鮮海峡^{つしま}や対馬海峡は浅く、もと地質時代のはじめには陸橋^{りっきょう}を形成していたのであり、旧石器時代の人類やインド象等もこの陸橋を伝って日本にやってきたのである。

- ^{しまぐにこんじょう}
1) 島国根性：視野がせまく、こせこせした性質をさげすんでいう語。
2) 鎖国：外国との通商・交易を禁止すること。とくに、徳川幕府が集権的封建体制確立のため、キリスト教禁止を口実に貿易と外国人の渡来を統制し、日本人の海外渡航を禁止した政策(1639～1853年の約 215 年間にわたった)。
3) 日本列島の東方に 890km にわたってのびる海溝。最深は 8412m。
4) 大和堆：日本海のほぼ中央部に位置する海底の巨大な高まり。300m より浅い平坦な頂面を示し、周囲は急斜面で下降する。



日本近海の海流

これら海溝や海盆の上を、日本列島に沿って南北から★暖流と寒流が流れ、山の多い島国の気温を調節し、日本をして古来世界における豊かな水産国たらしめている。

まず、¹⁾黒潮の名で呼ばれる高温高^{こうかん}鹹の日本海流は、その源をフィリピン東方の海に発して、台湾沖の東方を北上し、奄美大島から東北に流れ、南九州や土佐沖から、^{あまみ}潮^{しおのみさき}岬^{ちようし}沖^{いぬぼう}を経由し、銚子の犬吠岬あたりから東流する。このあたりで千島列島から南下して来た²⁾親潮と呼ばれる千島海流と合流する。一方、日本海側にあっては、奄美大島から北上した暖流の分派は対馬海流となって日本海^{おきあい}の沖合を北上するが、ここでもまた、寒流のリマン海流が、ロシアの本土沿岸に沿って朝鮮に南下する一方、その分派は東北^{おが}の男鹿半島に向かって下層の冷水塊を形成している。

暖流と寒流が接するところは潮目^{しおめ}と呼ばれ、ここに暖

★この暖流と寒流の名前と流れを、本文と地図によって確かめなさい。

1) 黒潮: 日本海流とも。フィリピン東南から発し、日本付近を流れる暖流。

2) 親潮: 千島海流とも。ベーリング海に源を発し、三陸沖に達する寒流。

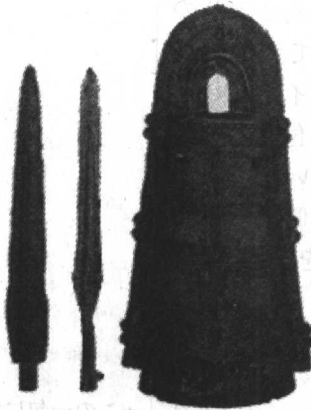
第一章 日本の風土と文化

流に住む魚と寒流に住む魚が集まる。ことに三陸沖の海岸は、その¹⁾リアス式の海岸地形と相まって豊かな漁場を形成している。



リアス式海岸

海流はまた文化の伝播に役立つ。日本文化の中には朝鮮半島経由の大陸的文化だけでなく、南方的要素も少なくない。²⁾クリ舟をとまなう初期の石器時代遺跡が太平洋側の半島や岬、瀬戸内の島々で発見されたり、³⁾銅鐸^{どうたく}に⁴⁾高床居の絵画をみたりすることなどは海流利用による南方系文化の伝播を証明している。



銅剣、銅矛、銅鐸(左から)

(銅剣は福岡県、銅矛は長崎県、銅鐸は静岡県出土。東京国立博物館蔵)

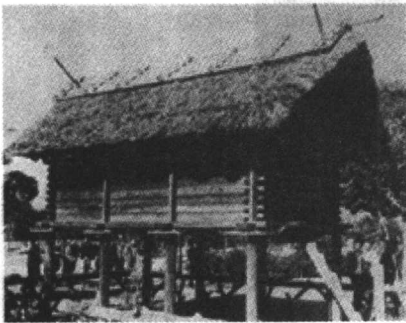
1)リアス式の海岸:出入に富んだ海岸線。

2)クリ舟:一本の木をくりぬいて造った舟。

3)銅鐸:横断面が扁円形を呈する筒状の身に扁平な鈕のついた弥生時代の青銅製品。高さ10cmから140cmほど。両面に文様や原始的な絵画があり、祭器として使用されたもの。近畿地方を中心に、中部・中国・四国などから約400個出土。

4)高床居^{たかゆかきよ}:高床式住居のこと。地上より床を高くした建物。典型的なものは東南アジアに見られ、日本の弥生時代以降の倉庫もこれに類する。

「日本は島国である」といってもマダガスカルやスリランカのように一つの主島から成り立っているわけではなく、本州を中心として、北に北海道、西南に四国及び九州が浅い日本海をかこんで弧状にその凸面を太平洋側に向け、東北から西南の方向にのびている。北の宗谷岬の北緯45度31分から、南は沖縄の波照間島の24度まで緯度差にして25度9分に及んでいる。したがって北半球の温帯に属するとはいいながら、山地の多い地形変化と相まって、さまざまな気候変化にともなう地域差を呈している。



高床式倉庫(静岡市登呂)

日本の総面積は37万2461km²で、それは23万km²の本州島と、その約3分の1の北海道、さらにその半分ほどの九州、またその約半分の四国といった主として四つの島から成り立っている。うち本州の面積はほぼイギリスと同じだと考えてよい。ほかにこれらの主島に付随して大小あわせて3000以上の島々が散在分布している。日本の弧状列島は、いくつかの弧の凸面を太平洋側に向けている。この弧は北東の千島列島から本州弧をへて、西南の琉球弧にのびる。

(大島建彦ら編『日本を知る小事典6』、社会思想社、1980年による)

日本の気候 ★日本は中緯度地帯に位置するため、全体的に見ると気温が温暖で、四季の区別がはっきりしている。しかし、列島の北端から南端まで3000kmあるので、地域によって気温の差が大きい。例えば、北海道の稚内では年平均温度は6度2分であるのに、奄美大島の名瀬

★この一句に注意。

第一章 日本の風土と文化

では年平均温度は21.1度である。

また、日本はアジア大陸の東岸にあって、季節風帯にあるうえ、周囲が海に囲まれているので、夏も冬も季節風が雨や雪を降らせる。このため日本の気候は多雨多湿である。★年平均雨量は、九州が2050mm、四国が2030mm、本州が1700mm、北海道が1060mmで、雨量が最も多い紀伊半島のあたりは4000mmに達する地域もある。

★春になると、移動性高気圧と温帯低気圧が交互に日本列島を通過する。大陸から日本海に発達した低気圧が進んでくると、激しい南風が吹き、日本海側では★フェーン現象が見られることがある。高温多湿な小笠原気団と、低温湿潤なオホーツク気団との間に、東西に伸びる梅雨前線が日本列島南岸に停滞すると、★梅雨の季節である。夏至を含む季節であるにもかかわらず、とくに西日本を中心に降水をもたらすので、日照時間は短くなる。梅雨には高温多湿な日が続く、日本の特徴的な季節となっている。小笠原気団がほぼ日本全土を支配すると、梅雨明けである。晴天が続くが、湿度が高いので、熱帯地域以上に寝苦しい夜となることが多い。夏の終わりから秋にかけては、★台風が到来する。この時期は台風の襲来だけでなく、発達しはじめた揚子江気団と、小笠原気団との間にできる秋雨前線により、比較的雨が降ることが多く、秋霖の季節と呼ばれている。この時期が過ぎると、移動性高気圧と温帯低気圧が交互に日本を通過し、比較的晴天に恵まれ、秋晴れの季節となる。そして、寒冷なシベリア気団から季節風が吹き出すと、もう冬の訪れである。シベリア気団の勢力が衰えるまで、春は来ない。

★このように、気温が温暖なこと、地域によって気温の差が大きいこと、雨量が多いこと、四季の移り変わりがはっきりしていることなどが日本の気候の主な特色である。

★日本の気候は地域によってかなり違っている。その原因をまとめてみると、次のようである。

日本の国土は南北に細長いので、南と北では気候がかなり違っている。渡島半島を除いた北海道は亜寒帯性気候(月平均気温0度以下が四ヶ月以上)に属するが、奄美大島以南の南西諸島は亜熱帯性気候(年平均気温が20度

★日本各地の年平均雨量の違いに注意。

★日本の四季の変化に注意。

★フェーン現象:山を越える風が乾いて、熱風となって吹き降ろす現象。多く、日本海沿岸の都市に大火をもたらす因となる。

★梅雨のことに注意。

★台風のことに注意。

★日本の気候の主な特色に注意。

★なぜ日本の気候が地域によってかなり違っているかに注意。

以上)に属する。そして、その中間にある渡島半島・本州・四国・九州はみな温帯性気候(年平均気温が20度以下)に属する。このように、気温を中心にして分けると、日本の大部分の地方は温帯性気候であるが、南には亜熱帯性気候の所があり、また、北には亜寒帯性気候の所もある。

*日本は季節風帯にあるため、季節風も日本の気候に大きな影響を与えている。冬は北西の冷たい季節風が強く吹き、夏は南東の季節風が吹いて、暖かい湿った空気を運んでくる。このため、太平洋沿岸では夏季に雨量が多く、日本海岸では冬季に深雪となる。

*日本の本州は高い山々が背骨のように列島の中央部を貫いている。このような地形も日本の気候に大きな影響を与えている。中央部の山地を境にして、太平洋側と日本海側とでは気候がずいぶん違う。太平洋側は夏に雨の日が多く、冬は乾いた風が吹き、晴れた寒い日が続く。これに対して、日本海側では夏にはわりあい晴天の日が続くが、冬は雪や雨の日が多く、曇った日が続く。

*日本の気候はまた、大いに海流に影響されている。南方からの暖流は、北方からの寒流を弱めて日本を暖かくするし、また北方からの寒流は、日本の東北部を寒くする。その結果、海岸地帯と海から離れた内陸の盆地とでは気候が違っている。

以上のような原因によって、日本の気候は大きく太平洋式気候と日本海式気候に分けられる。この二大区分を前提として、日本をいくつかの気候区に分けることができる。

*太平洋沿岸気候区は、夏は雨が多く、冬は乾燥する。日本海沿岸気候区は、一般に夏はわりあい雨が少なく、冬は雪が多い。北海道気候区は、冬が長く、日本海側に雪も多く、気温は低い。南西諸島気候区は、一年中気温が高く、しかも台風による雨が多い。瀬戸内気候区は、冬も温暖で年中雨が少なく、晴れた日が多い。中部高地気候区は、夏と冬の気温の差が大きく、降水量が少ない。

*気候は産業や生活に大きな影響を与えている。夏は高温になるので、稲作が行われ、そのあとに、涼しい気候に適する小麦が作られる。東北では寒冷帯性のりんごやジャガイモが、西南では温帯性のみかんや茶が収穫され

★季節風の日本の気候への影響に注意。

★地形と日本の気候との関係に注意。

★海流と日本の気候との関係に注意。

★各気候区の気候の特徴に注意。

★日本の気候が産業や生活にどのような影響を与えているかに注意。

第一章 日本の風土と文化

る。日本人は複雑な気候の特色をよく知り、それぞれの土地の気候に応じて工夫をするなど、知恵と努力を積み重ねて、自分の生活を築いてきたのである。

(劉笑明編『日本国家概況』、南開大学出版社、2000年による)

日本の地質構造 日本列島弧は中央の地質構造線によって通常東北日本弧と西南日本弧に二大別されるが、これらはいずれも、ふるい地質時代において太平洋側からの横圧力による造山運動の結果形成されたものである。この太平洋側には千島・東北弧に併行して千島・日本海溝、マリアナ諸島の南には¹⁾マリアナ海溝があって、はじめにのべたようにその深度6000mからピチアス海淵など1万m以上に及んでいる。

日本弧の主要部分を占める本州弧は、★地質構造上は、フォッサ・マグナ(Fossa Magna)と呼ばれる大地裂帯によって東北日本と西南日本とに二大別され、さらに西南日本は西南日本中央構造線(Median Line)と呼ばれる中央地質構造線によって日本海側の内帯と太平洋側の外帯とに二区分されている。このいわゆるフォッサ・マグナは糸魚川^{かわ}から静岡に至るもの、西南日本中央構造線は途中の諏訪湖^{わこ}から天竜川^{あつみ}を渥美半島經由、近畿では櫛田川^{くしだがわ}、紀ノ川^き、四国では吉野川^{よしのがわ}河谷を佐田岬半島北側に出て九州を横断している。

日本の山地には断層運動によって陥没^{かんぼつ}した多くの山間盆地があり、これらの封鎖的★内陸盆地が封建時代における²⁾大名領国の城下町を形成するに役立ったのである。

同様に畿内の京都・奈良盆地はともに琵琶湖^{びわこ}をふくむ近江盆地^{おうみ}と同じように、この時期に陥没した地域であって、そのいずれもが当初は琵琶湖と同じようにその盆地底部に湖水をたたえていた。その後の地盤の隆起と、淀川^{よどがわ}や大和川^{やまと}上支流の土砂の運搬堆積によって陸化し

1)マリアナ海溝:マリアナ諸島の東側に沿って弧状に張り出した海溝。長さ2550km、地球上の最深点ピチアス海淵(11034m)がある。

★地図の上で、東北日本と西南日本、日本海側と太平洋側をそれぞれ確かめなさい。

★ここから、盆地と古代都市との関係に注意しなさい。

2)大名^{だいみょう}:武家時代、広い領地を持っていて、領内を統一的に支配する独立の領主。

たものである。つぎに¹⁾平城京や²⁾平安京が奈良や京都の内陸盆地に設立されたのは、その地形的・位置的条件によっている。すなわち両盆地とも三方が山で囲繞^{いじょう}され、一方のみが内陸河川によって瀬戸内東端の大阪湾に通じるといった、古代官僚国家の首都にふさわしいその封鎖的な防御位置を占有したことによっている。この場合、³⁾難波京がおかれた上町台地は、これら古代宮都の門戸をも構成していたのである。

*いずれにせよ日本は山国であり、平野のどこに住んでいても山の見えないところはない⁴⁾箱庭の景観をとどめている。しかも山々には、⁵⁾日本アルプスの名で呼ばれる標高 2000m から 3000m 以上に及ぶ起伏変化に富む高山がそびえるかと思うと、北上山地や中国山地のごとく、平均高度 1000m に達しない準平原化された起伏変化のすくない老朽山地もある。通じて日本の山地は急峻^{きゅうしゅん}なため、これらに源を発する河川は短小にして急流を形成し、上流では水力発電のためのダムが構築されている。また立山連峰^{たてやまれんぼう}や槍^{やり}・穂高連峰^{ほたか}で代表される 3000m 以上の北アルプスの山々には、⁶⁾洪積世に氷触によって形成せられた圈谷^{カール}地形がのこされている。

日本における集落や水田の高距限度はほぼ 1000m といつてよく、これ以上の高山集落は観光用等特殊な機能をもつものといつてよい。しかし内帯では金・銀・銅といった貴金属の接触鉱床があって、古い時代から山地に鉱山集落が発達した。また北海道や北九州では石炭の採掘が行なわれ、セメント工場等が営まれている。しかし山地面積の多い割合には、日本は鉱物資源にめぐまれず、ことに鉄と石油資源が乏しいことも島国の一つの宿命とすべきであろう。

しかも一口に山といつても、日本の山々の多くが火山から成り立っていることにも注意しておかなければならない。元来火山は酸性土壌から成るから、噴火の時期の新しいものほど、耕地としての条件はよくないのである。しかし火山で代表される日本の山々は、その付属物である温泉とともに平和的な観光産業の対象として重要な資源を形成している。

¹⁾平城京: 日本古代の都(710 ~ 784 年)、現在の奈良市の西方にあたる。

²⁾平安京: 794 ~ 1868 年まで 1100 年間続いた日本の都、現在の京都市にあたる。

³⁾難波京: 日本古代の都宮。孝徳天皇(645 ~ 654 年在位)と聖武天皇(724 ~ 749 年在位)の宮、現在大阪市東区にあたる。

*ここから、日本の山地・河川産業の特徴を考えなさい。

⁴⁾箱庭: 浅い箱に土や砂を入れ、小さな草木を植えたり、模型の家・橋などを置いて、庭園・山水などの景観を模した飾り物。

⁵⁾日本アルプス: 中部地方の飛騨^ひ・木曾^{きそ}・赤石^{あかいし}の三大山脈の総称。日本最高の山岳地帯。

⁶⁾洪積世^{こうせきせい}: 170 万年前から 1 万年前までの時代。更新世ともいう。

火口と国立公園地帯 北の北海道から南の沖縄諸島に至るまで、日本の弧状列島を貫くものは新期の火成岩から成る¹⁾第三紀以降の火山である。しかもその形式には日本最高峰の富士山(3776m)に代表される²⁾コニーデ式、^{だい}大^{せん}山に代表される³⁾トロイデ式、^{がっさん}月山の⁴⁾アスピテ式のほか、^{はこね}箱根や^{あそ}阿蘇にみるように大きな火口湖や火口原をと⁵⁾もなうカルデラ式火山に至るまで、ドイツのシュナイダーの分類にみるすべての形式をふくんでいる。さらに日本の湖の中にも^{とわだ}十和田湖や^{うなぎけ}鰻池等のようにマール、すなわち火口湖も少なくない。

火山は古来日本人の信仰の対象ともなった。アイヌ語で火を吹く山といわれた富士山はもとより、⁶⁾修験道者等に信仰された^{たてやま}立山や月山以下の⁷⁾出羽三山、さては^{だい}大山寺のある大山等、古来霊場となったものが多い。阿蘇谷開拓の歴史をみても標高500mのその火口原には先史時代の遺跡が分布し、⁸⁾肥後国の^{ひご}一宮や古代の^{いちのみや}班田制を物語る¹⁰⁾条里地割も残存していて、その開発がきわめて古い時期にさかのぼることを知らしめる。

日本は環太平洋火山帯に属し、古来地震と火山・台風の多い災害の国であり、今もなお活動を停止していない活火山や休火山も少なくないのである。*しかし日本人にとっての火山は災害の対象ではなく、観光資源の対象としての意義が大きい。かりに現在の国立公園26カ所についてみても、火山がふくまれていない地域はわずかに数カ所にすぎないのである。

国立公園に較べると国定公園はその数も48地域にのぼり、その種類もまた、火山や地形だけではなく明治の森等といった小規模な森林公園や沖縄戦跡等もある。

国立公園が目下厚生省の管理下にあるのに較べると国定公園は知事その他の管理下にあるが、いずれにせよ昨

1)第三紀:6500万年前から170万年前までの期間。現在の日本列島の形ができた時代といわれる。

2)コニーデ:シュナイダーによる火山の形態分類の一つ。同一火口から噴出した溶岩と火砕物が交互に層となって形成した円錐形の複成火山。成層火山とも。

3)トロイデ:粘性の大きな溶岩が火山口に盛り上がってできた丘。溶岩円頂丘とも。

4)アスピテ:主として粘性のきわめて小さい玄武岩質溶岩流からなる傾斜のゆるい火山。楯状火山とも。

5)カルデラ:火山の中心部またはまわりの大型のくぼ地。

6)修験道:高山などで修行し、呪力を体得しようとする宗教。

7)出羽三山:山形県中部の月山・羽黒山・湯殿山の三山。中世以来山岳信仰の対象として修験道場となる。

8)肥後国:現在の熊本県。

9)班田制:土地を国有とし、田を^{わか}班^{はんでんせい}って一定面積を一定年齢に達した国民に授け、民生を安定させる古代国家土地制度。645年大化改新に採用され、律令によって制度的に整ったもの。

10)条里:班田制によって、田地は6町四方に区画され、一辺を条、他辺を里と呼び、田地の所在は何条何里何坪で示された。

*日本人は火山をどのように利用しているかを考えなさい。

今公営の国民宿舎等も増加したことは喜ばしい現象である。ただ、この種観光資源が日本人のみを対象とし、外人向けのユースホステル等が少ない点に問題がある。歴史の古い日本では史蹟のほかにもすぐれた名勝が多く、その成立に関する国民の自然地理学的な理解もまた要望される。

日本の平野 ★日本の¹⁾沖積平野の面積は国土のわずか13%であり、これに²⁾洪積丘陵や台地の面積の11%を加えても24%しかない。これらの沖積平野は、山を刻む河川が運搬堆積してできたものであるが、山麓の谷口にあつては扇状地を形成し、海岸近くでは三角州平野を、また中流においては流路がしばしば変動して、いわゆる氾濫原を構成しそのあちこちに微高地となった自然堤防をのこしている。また海岸近くでは河口に堆積した土砂が³⁾卓越風に吹きあげられて砂丘を形成しているものもある。千代川河口の島取砂丘や信濃川河口の新潟砂丘等は日本の代表的な砂丘でその高度は、30メートルに及ぶところもある。

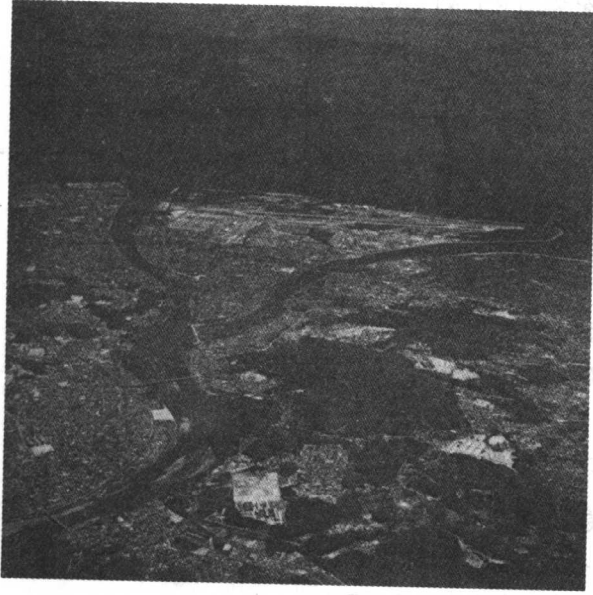


山地と平地の境に発達する扇状地

★ここでは、日本の平野の特徴に注意しなさい。

- 1) 沖積平野: 河川によって堆積した砂礫や泥土で形成された平野。
- 2) 洪積丘陵: 洪積世の堆積物でおおわれた台地状の丘陵。沖積平野より高い位置にある。
- 3) 卓越風: ある時期や季節により、特定の方向からよく吹く風。

★扇状地と三角州との差は、扇状地が山麓の堆積面で砂礫されきから構成され、地下水面の水位が深いのに対して、三角州は泥砂から構成され、低湿で塩入川等もみられる点にある。



河口に発達する三角州

また扇状地では山から河川が運搬してきた砂礫が谷口でにわかに堆積されるために、その傾斜は山麓ほど急であり、しだいに低地へと移行する。断層の発達した日本では、至るところ断層崖に複合扇状地が発達している。

つぎに土地利用上からいうと扇状地は高燥で排水がよく、住宅地や果樹園等に利用されるのに対して、三角州では地下水が多いため工場立地りっちとなり、また一毛作田いちもうさくでんが多い。扇状地でも谷口と扇端部には湧水がみられるため、早くからこの地帯に人類の集落が発達した。台地や丘陵にあっても同様で、崖下の湧水線が早くから開拓されたことは、ここに石器時代遺跡が多く分布することから知られる。

関東平野の地形は¹⁾ローム層から成る洪積台地の間に、ふるい支湾が入りこんで、いわゆる樹枝状谷を形成し、台地の上は畑作地域となり、水田はこの樹枝状谷に配列されている。²⁾貝塚はこれら丘陵と支湾との接触地に

★地質と利用の仕方から、扇状地と三角州との違いを比べなさい。

1)ローム:火山灰が風化した赤褐色の土。

2)貝塚かいづか:古代人の食べ捨てた貝殻などが堆積した遺跡。

分布し、先史時代には海水が樹枝状谷の奥深くまで浸水していたことを物語る。

陸地の沈降隆起、つまり地塊運動のはげしい日本の海岸線はその総延長は2.68万 kmにも及び、屈曲変化に富み、多くの港湾が発達し、岬や半島を突出せしめている。

半島や岬・島嶼は文化伝播の終着点であるが、将来フェリーや架橋の完成がまつれる。

日本の河川 ★日本の平野をつくりあげた河川は諸外国に較べると短小であり、その流域面積もまた僅少である。しかしかにかに流程が大であっても、中国の江^{こう}川^{かわ}や四国の四万十^{しまんと}川^{がわ}のように山間のみを流れる先行性の河川は、ダムがつくられない限りは人文の役にはあまり立たない。

またこのような山間盆地を流れる先行性の河川でも東日本の場合は雪解けの水などが残っていて、^{かつすい}渇水することがなく、たとえダムを作っても、その保水量に年間の変化はないが、西日本のそれは水位に変化をもたらし、ことに夏期には水面が低下する。つぎに流域面積にしても北海道の釧路^{くしろ}川^{がわ}や十勝^{としかち}川^{がわ}のように、平野に泥炭層が多いところを流れるものは河川のもつ利用価値は少ない。それはともかく、まず日本において流程の最大の河川は信濃^{しなの}川の367kmにはじまり、第二位は天塩^{てしお}川の311km、ついで利根^{とね}川(298km)、第四位は石狩^{いしがり}川(262km)、第五位天竜^{てんりゅう}川(250km)の順となるが、上流に名寄盆地をもつ天塩川は北の宗谷海峡に流れ、信濃川は上流に長野盆地を形成する。

日本の河川が★人文に与える条件のまず第一は、それが古来灌漑用水として役立ってきたことであろう。大化2年の班田収授のあとを裏付ける条里地割の分布をみると、沖積平野の河川流域が早くも開拓されたことがわかる。ただしこの条里地割の北限は東北地方の北上^{きたかみ}川上流地域の二毛作田がその限界地域となっている。沖積平

★日本の河川の特徴について注意。

★ここから、河川による人文の役割について考えなさい。

野だけにとどまらず各地の山間支谷においてももとより班田は実施された。ついで中世の¹⁾荘園には低湿な水田のほか、²⁾杣^{そま}と呼ばれる水利の便の悪い山地や丘陵地帯が開拓されることになる。さらに近世に入ると臨海の^{うめたてち}埋立^ち地や旧河川の自然堤防等が開拓されて、ここでもまたそれぞれ水田や畑地となった。宝永元年(1704)以後流路をつけかえられた旧大和川の川床には商品作物としての綿が植付けられた。

しかし日本の河川は、このように灌漑用水としてのほか、鉄道開通前の水運にも利用された。

河川はまた古来文化伝播の通路としても役立てられた。そしてこのような通路に沿って明治以後になって鉄道やバスが開通したのである。

河川はまた、古来日本の政治的境界としても役立った。利根川が³⁾下総国と⁴⁾常陸国を分かち、熊野川の下流が三重・和歌山両県を、さらに多摩川が神奈川県を東京都から区別するなどの例があるが、どちらかという日本の旧国境や府県境は、河川よりも山嶺線によって区分された場合の方が多いといえる。

以上のほか、はじめにも述べたように、河川は現在では中下流においては灌漑用水のほか、工場用水源として、また上流においては、エネルギー資源としてダム貯水等現代人の生活に欠くことのできない経済的資源を提供している。ただ下流の三角州地帯における過度の地下水の汲上げが、しばしば地盤の沈下をもたらすことや上流や流域に工場があった場合、その廃液や鉱毒を流すために、下流の住民の健康や水田、養殖等住民の経済生活に甚大な被害を及ぼしてきた。資本主義の生んだいわゆる公害が本来は清く美しい河川の水を汚染しているのが現状である。この汚水はやがて海に流れてはヘドロとなるのである。同様に山間盆地の上流に、水路式であれ、ダム式であれ、ダムが掘さくされて電源開発が行なわれるのはよいが、先祖伝来の田畑や家屋が水没し、住民が故郷を去って都会に出向かねばならない状況にあって、過疎地域にも

1) 荘園^{しやうえん}: 平安から室町時代まで、貴族・社寺などが諸国に持っていた私有地。

2) 杣^{そま}: 材木用の木を植えた山。

3) 下総国^{しもうきのくに}: 現在の千葉県北部と茨城県南西部。

4) 常陸国^{ひたちへのくに}: 現在の茨城県の大部分。

問題が残る。

この他水資源の地域的配分の問題は、その使用目的いかんによって建設省や厚生省・農林省等々と役所の所轄を異にすることや、元来河川はいくつかの行政区域を流下することと相まって、その使用についての行政的対策に問題を生じる場合が多い。

最後に日本の湖沼についても、すでに述べたように、それが火山に付属して観光資源の対象となる場合のほか、琵琶湖や猪苗代湖^{いなわしろ}等で代表されるように、河川と同様水資源としての価値も大きい。

日本の地域区分 ★現在日本は行政区画の上からは1道1都2府43県に区分される。明治以前までは5畿7道に大別されて、その中に68カ国が存在していた。これら旧藩の国々は、一国がそのまま明治以後の府県となったものもあるし、二国あるいは三国が合併されて一つの府県になったものもある。こうした行政区画の根元は、やはり地形による地理的単位^{地理的単位}の同質性によっている。したがって、地理的単位を無視した行政区画や町村合併は問題をのこすのである。この場合、理想的な地域区分はどのような地形区分に従ったらよいのであろうか。

フォッサ・マグナを境にして日本列島は、地帯構造の上から東北日本と西南日本に二大別されることはすでに述べたが高地や低地、さらに火山地域の配列を考えながら日本列島をA北海道、B東北地方、C中部地方、D西南地方に四大別し、さらにその中に多くの地域的単位を独立させている。

がんらい地理的地域というのは、自然・人文両現象がまとまりをもって有機的に調和された地域をいうのである。したがって、理想的なこのような地域というのは、地形区や気候区・生物区・人口密度区・農業地区・工業地区・行政区等それぞれ別箇な地域区分図を重ね合わせ、その最も重複度の大きな地域ということになる。ところ

★日本の地域区分を地図に照らし合わせて見なさい。